

主体的に学び、理解を広げ深める子どもの育成

～個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を通して～

目指す子どもの姿

「分かる」「できる」を
実感することができる
子ども

じっくりと
考えることができる
子ども

仲間と
協働することができる
子ども

〈研究仮説〉

子ども一人一人の学びやすさにつながる個別最適な学びと、学級集団の学び合いにつながる協働的な学びの一体的な充実を推進することで、学び合う楽しさを実感しながら主体的に学び、理解を広げ深める子どもの姿を具現化することができるであろう。

重点 1

子ども一人一人の学びやすさにつながる個別最適な学びの位置付け

- 個に応じた指導の手立てや教材・教具の工夫
- 子どもが自分にふさわしい方法を選択して学習することができる柔軟な学習形態の工夫
- 子どもが自由な発想で日常的に ICT を活用することができる学習環境の整備

重点 2

学級集団の学び合いにつながる協働的な学びの位置付け

- 多様な考えを共有したり、比較・検討したりするためのペア学習やグループ学習の位置付け
- 対話や協働を通じて、子どもが問題を発見し解決していく学習過程の工夫